



その他の境内案内（境内図）





その他の境内案内 (1)



善光寺堂

洛陽三十三所観音霊場第十番札所。もとは地藏菩薩を本尊とする「地藏院」でしたが、いつ頃からか如意輪観音を中尊とし、明治の中頃に奥の院南庭にあった善光寺如来堂と合併して善光寺堂となりました。鎌倉時代末期作の如意輪観音坐像、善光寺如来堂の本尊であった善光寺型阿弥陀如来三尊像、本尊の地藏菩薩立像が並んで安置されています。善光寺堂の右手前には、自分が恋い想う人の住む方向に首を向けて祈願すると、想いが叶うといわれる「首ふり地藏」が安置されています。



馬駐

かつて貴族や武士がここに馬を繋ぎ、徒歩で諸堂を参詣しました。現在の建物は応仁の乱(1467～1477年)後に再建。正面約10.5メートル、側面5メートル強と規模が大きく、同時に五頭の馬を繋ぐことのできる全国的に希少な遺構です。平成22年(2010)に解体全面修復されました。(重要文化財)



中興堂／良慶和上御霊屋

清水寺の中興開山大西良慶和上の御霊屋。は大正3年(1914)に奈良・興福寺住職と兼職で清水寺に住持、約70年にわたって清水寺住職を勤められ、衰退していた清水寺を現在の形に復興されました。その偉業を讃え、平成7年(1995)の和上十三回忌を記念して中興堂を建立発願、平成9年(1997)に落慶されました。



春日社

成就院参道に建つ小さな社。室町時代後期に再建。清水寺の法流の鎮守である奈良の春日大明神の来臨を願って祀った鎮守堂です。典型的な春日造りの神社建築で、細かな彫刻が桃山時代の様式美を表しています。



北総門

寛永8～16年(1631～39)に再建。かつては成就院の正門として使われていました。平成22年(2010)に全面的に解体修復工事が行われました。(重要文化財)



その他の境内案内 (2)



開山堂／田村堂

堂内中央には、清水寺創建の大本願・坂上田村麻呂公夫妻像を須弥壇上の厨子(重要文化財)内にお祀りし、併せて清水寺開基・行叡居士と開山・延鎮上人を奉祀しています。現在の建物は寛永10年(1633)再建、平成18年(2006)に修復されました。縹緗彩色という手法が施され、丹塗りの柱と屋根をつなぐ組み物は、朱や緑など五色で彩られています。(重要文化財)



アテルイ・モレの碑

八世紀末、蝦夷(現在の岩手県奥州市地域)の首長・阿弋流為(アテルイ)と母禮(モレ)は平安朝廷の東北平定政策に対して戦いましたが、郷土の犠牲に心を痛め、征夷大將軍・坂上田村麻呂公の軍門に下りました。平安建都1200年を期し、1994年に建立されたこの碑は、助命かなわず処刑された両雄の鎮魂慰霊を願ったものです。



朝倉堂

洛陽三十三所観音霊場第十三番札所。越前の守護大名・朝倉貞景の寄進により、「法華三昧堂」として永正7年(1510)に創建。創建当初は朱が鮮やかな舞台造りでしたが、寛永10年(1633)に、現在の姿である全面白木造りに再建されました。堂内の宝形作り唐様厨子(重要文化財)の内部には、本堂と同様に清水寺型千手観音ら三尊像をお祀りしています。平成25年(2013)に解体全面修復されました。(重要文化財)



轟門

寛永8～10年(1631～33)再建。ここを通過して本堂へ向かいます。正面には左右両脇に持国天と広目天、背面には阿・吽形の狛犬を安置しています。門の前には、四角にフクロウが彫刻された石造の「梟の手水鉢」があります。平成28年(2016)に全面改修を終えました。(重要文化財)



釈迦堂

寛永8年(1631)再建。一見簡素な造りですが、内部は朱い漆塗りの円柱の来迎柱や、極彩色を施された長押、貫、遊飛する天女の天井画などが装飾されています。中央の黒い漆塗りの須弥壇上には釈迦三尊をお祀りしています。昭和47年(1972)に豪雨で倒壊しましたが、その3年後に復旧されました。



その他の境内案内 (3)



濡れ手観音

水垢離の行を本人に代わって行ってくれる観音さまです。北隣の蓮華水盤から柄杓で水をくみ、この像の肩からかけて、自分自身の心身の清めと所願成就を祈願します。この水は「音羽の瀧」の水源の真上に湧く「金色水」と呼ばれます。



百体地藏堂

釈迦堂と阿弥陀堂の間の奥に建つお堂。子供を亡くした親たちが、我が子に似た地藏を探し、篤く信仰しているといわれています。夏の地藏盆会では賑わいを見せます。



泰産寺

子安塔のふもとにある、塔を守護する寺院です。「泰産」は「安産」と同じ意味をもち、子授けはもちろん、洛陽三十三所観音霊所の第十四番札所としても多くの参拝の方が訪れます。ここからは、西門から本堂まで伽藍が並ぶ景色が望めます。
